
スレイヤーズいーすと

—

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スレイヤーズいーすと

【Zコード】

Z45200

【作者名】

—

【あらすじ】

ゼフィーリアに向かう途中の遺跡探索のさなか、リナとガウリイは異世界へと飛ばされたのだった。

盗賊じじめむせんじせん

鬱蒼とした森の中微かに漏れる木漏れ日が大地に埋もれた遺跡を照らし出していた。

「ほんとーにあつたわね・・・」

「ああ、ほんとにあつたなー」

あたしとガウリイぼーゼんとつぶやく。

「でもよびりするんだこれ？埋まつてゐるやうの遺跡」

相変わらずこの男は、

何度かガウリイの前でもこの呪文使つているはずだが。

「大丈夫よ、ちょっと離れてベイス・プリング地精道」

サイラーグからゼフィーリアへ道中、十日程たつたある夜のこと、あたしは一人壊滅させた盗賊団から奪つ戦利品を品定めしていた。

「う～ん久しぶりの盗賊だから張り切つて潰したけどしょぼいわね

しばらく前まで「デーモンが大量に発生する事件があり事件そのものは解決したもの」のデーモン大量発生事件の影響で盗賊達もどうやら

ら不景氣だったようである。

品定めをしていくらもしないつむぎ金貨やら玉石やら混ざつて巻物がほうり込みまれているのを見つけ手に取る。

「ん？ 巻物・・・なんだ地図か。しかしこんなあからさまに怪しい地図つかまされるような連中じや見入りが少ないのもしかたないか」
「この世の中宝の地図と言われる物は大量に出回つてゐるが本物などほとんどない。

第一「この地図けつ」の新しいぞ。

地図を足元に置き再び品定めを再開すると後ろからいきなり呆れたような声がかかる。

「また盗賊いじめかりナ」

「なつ・・・ガウリイ一つの間に来たのつ」

「いや今着いたところだがまたこんなことして・・・」

「つ・・・このパターンは長時間説教コースならば。

「いやあガウリイちよづじよかつたわ田的第一次変更よ」

足元の地図を拾いガウリイに見せながら言つ。

「目的地はカルマート公国で宝捜しよ。この辺りはレティティウス

公園の遺跡がけつこつあるから以外と当たりかも知れないじゼフィーリアからそう外れてないしね」

しかしガウリイは困ったよつた顔して頭をかきながら、

「リナお前をひき思ひきつて怪しい地図つて言つてなかつたか?」

「言つてない」

はつあつぱり言つ切るあたし、

「まあ遺跡が多い本當だからとりあえず行つて見ましょ!」

かくして

あたしの説教逃れから始まつた宝搜しだつた。

シートソーダに灯る淡い明かり(ライティング)の光りが闇に
闇やれた遺跡を照らし出す。

どうやらこの遺跡レティディウス時代よりも古い降魔戦争時代の
研究施設のようだ。

しかしあんな怪しい地図が本物とは世の中奥が深いもんである。

まあ本当にお宝があるかどうかは別だが、けつこつ期待できるかも知れない。

けつこつたところには今の技術では作れないマジックアイテムや
魔導書があることがあるのだ。

そんなことをつらつらと考えながら探索をしているとガウリイが何か見つけたのか声をあげる。

「おいらナこっち見て見ろよ。」

ガウリイの声のするまへ向かうとナレハシの部屋と明らかに違っていた。

ちょっとした家が一、三件入るような部屋の天井から周囲の壁、床まで部屋中央の魔法陣に向かつてクリスタル柱を延ばしている。

「・・・ふうん多分この遺跡の実験施設かしら」

ヴィーイイイイイイ

魔法陣を調べているとか金属を振動させるような音がしたかと思つと、周囲の景色が歪み音がフツと途切れた時、目の前にはクリスタル柱に覆われた遺跡ではなくどこまでも広がる蒼い空。

しかしながら先に気になつたのは魔力の濃さ、かつてサイラーグに生み出された異世界ほどではないにしろかなり濃い。

「ガウリイ、どうやら魔族にじょ招待されちゃつたみたいね？」

「ああ、そうみたいだなリナ」

ガウリイも大気に溶けた異様な魔の濃さに気付いているのだろう。

あたしとガウリイは周囲をしばらく警戒するが、

「おい、リナビツから敵さんはいないみたいだぞ」

「うーん、もしかしたら魔族じゃなくてセツキの魔法陣のせいかも
知れないわね」

「ところでガウリイそれどうする?」

ガウリイの持つ剣、残妖剣には魔が濃い程切れ味を増す特性があり、切れ味を鈍らせる呪文を書いて貰っていたのだがそれを上回ったようで鋼鉄製の鞘が真つ二つになっている。

「やっぱこのまま持つていくしか無いんじやないか? どうせ切れちまうだろ?」

「それもそうか。それじゃとりあえず、ここがどういった所か見て回るわよー。」

盗賊じじめわせぬ黙示録（後書き）

異世界に迷いこんだりナとガウリイ

はたして元の世界に帰ることができるのか？

と云うか抜き身の剣を持つていて、めちゃめちゃ怪しいぞガ
ウリイ。

次回スレイヤーズーすと第一話「向日葵」

ニーニーニー動画のスレイヤーズNEXTを見ながらまで！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4520o/>

スレイヤーズいーすと

2011年1月13日03時24分発行